

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	異文化	友松清子	奇蹟	北村耕三
3 ページ	君が代で想うこと	佐久間 努	木犀の咲く頃	加瀬清子

身近な自然をより良い形で残したい

栗原 欣一

佐倉市稲荷台四丁目の西端には、宅地造成時に残った斜面「大畑緑地」と、京成電車の線路脇にしみ出した湧き水を集めた小川があります。ここには小さいながら里山の原風景が残っています。この小自然をより良い形で次の世代に残すため、稲荷台四丁目自治会と佐倉自然同好会の有志で、平成十一年に稲荷台ピオトップ創生グループを立ち上げ、活動を始めました。幸い平成十一、十三、十四年の三年間、「さくら夢のまちづくりサポート事業」に採択され、市の援助を受けることができました。現在は稲荷台四丁目自治会から資金援助を受けて、活動を続けています。

川は、以前、農業用水として使われていました。水量は毎分七十〜八十リットル。水温は水口で十三度〜二十度、最下流では三十度近くになることもあります。

我々が自然を少しでも残すことにより、王子台小学校児童たちが校外学習の一環として利用しています。上座公園に近いので、一般の人たちが散歩道にしています。九月はヒガンバナが満開で感激します。

観察している植物

- ・ 樹木 コナラ、クヌギ他三十二種を確認。常緑樹は、ほぼ皆無
- ・ 草種 ホタルカズラ、ヒガンバナ、ヒメガマ、アシなど八十八種を確認。

緑地斜面が大半、約八十メートル、小川は約三百四十メートルで手繰りながら繋がります。この小

- ・ 魚他 メダカ、スジエビ、サワガニ、カワニナ、タニシなど

- ・ 昆虫 ジャコウアゲハ、オニヤンマ他多種類

活動事例
色々な日常活動を共同で、調査は個人で行っています。その一部を紹介します。

業者による草刈で植物を刈り取られないように、印をつけて植物の保護をしたり、子ども会と地域の人との交流の一環として、上座公園でアラゼミの羽化を観察したり、掲示板を一箇所設置して、折々の花・虫などの情報を提示しています。

その他、ヒガンバナの増殖、樹木や野草の植え付け、小川の環境改善、土留めの泥さらえ、ゴミ拾いなども行っています。

保全活動を行って、最も胸を痛めていることは、小川に缶やペットボトル、中には粗大ゴミまで捨てる人がいることです。身近な小自然をよりよい形で残すためにも、このような行為がなくなることを願ってやみません。

(編集委員)

異文化

「お父さん、お母さん、ただいまあ！」懐かしい声が玄關に響く。マデイが四年ぶりにニューヨークから帰ってきた。十二年前にたった三週間、我が家にステイしただけなのにその後ずっと交流が続いている。当時十九歳の大学生だった子がもう三十代になってしまった。日本文学を専攻しているせいか、流暢な日本語で部屋は急に賑やかになる。それに加えて彼女のドイツ人の男友達マチスが我が家で合流した。これから二人で穂高に登りその後、高山、京都と周遊する。大きなバックパックを背中に二週間の旅に出発した。

そして自分に本当に合えば結婚する。これは大変良いシステムです」と至っておおらかな。そういえば最近の日本の男女もかなりソフトムードになってきた。以前、諸外国の人たちと男女観について話し合ったことがあったが韓国や日本の人たちは欧米の考え方になかなか同調できず、文化の違いを大いに痛感した。儒教の根強い規範が人間本来の生臭さを包んでしまう。

ともあれ十年以上前、留学生のお世話をしていた時の生徒たちが夏休みになるとよく訪ねてくれる。当時十代、二十代だった子たちが今は恋人ができて結婚し二世が誕生し、今年はその子供の一人、十二歳の少年がカナダから単身でやってきた。孫を見ているようにでなんとも可愛い。

マデイも早く孫を見せてほしいつつ、夏休み最後の旅行先コスタリカに向けて楽しんでるうちに旅立つのを見送った。

(染井野 友松清子)

奇蹟

脳卒中(卒然と中る^{あた})は、癌、心臓病と並び、日本人の三大死因の一つである。私は今年の三月、その脳卒中の一病態の脳梗塞に罹患するも、今話題の治療薬の投与で、後遺症も無く、以前の生活を取り戻せたのは、今でも奇蹟としか言いようが無いと思っている。t P Aの投与による急性期血栓溶解療法で奇蹟は起こった。t P Aは欧米に遅れること十年、わが国では二〇〇五年十月に承認され、これまでは罹患者の七、八割は亡くなるか後遺症に苦しんでいた脳梗塞に心強い治療薬となつた。あの小淵首相、長嶋監督には、遅きに失したということになるのであるうか。

十六時三十分 助手席に乗り込み「さあ帰るか」と隣に声を掛け、アシスト・グリッブに手を伸ばそうとした時、動かないのである、左手が！

直後「声が変わだね」と隣人。深めに腰を沈めるべく足を引こうとした時、動かないのである、左足が！ その驚愕、何が起こったのか？

十八時三十分 ICUにてt P Aの点滴開始。

十八時五十分 左手が胸に掛布を引き上げるのを自覚！奇蹟の幕開けである。一昼夜に及ぶ処置の間、医師数人がつきつきりで、三十分間隔での問診(意識、呂律等)と身体各部位の動作確認が続いた。奇蹟をもたらすこととなつたのは、発症からt P Aの点滴開始までにくつつかのラッキーな事象があつたことと駆け込んだ先の東邦大佐倉病院にt P A治療に不可欠な高度な設備と医療体制が完備されており、発症後三時間以内(t P A適用の絶対条件)の治療が受けられたことである。

なお、『文藝春秋』十月号にこの治療の解説が掲載されていますのでご覧ください。

(中志津 北村耕三)

君が代で想うこと

国歌とは何か、どうであつたら良いのだろうか？

私は、法律で決まつたから、では済まされないとと思う。

とかく君が代が話題になるのは、詞にも問題はあるが、それだけではない。現代の課題が含まれているからだ。

言うまでもなく、戦争は自然現象ではなく、侵略する側と、それへの反撃としておきるのだ。

日本が、大東亜共栄圏、八紘一宇などを旗印に、中国大陸や南方諸国へ侵略したのはまぎれもない事実である。

攻めこんだ国々への暴虐の数々は謝りつくせるものではないが、併せて、侵略した側の我々国民はどうであつた？

一銭五厘の八ガキ一枚で軍人にさせられた男性は、食糧武器不十分なまま戦地へ送られ、戦闘だけではなく、掠奪行為や餓死で無数の「戦死」

者を生み出した。

一方、一般国民も、耐乏生活強いられ、食糧難や連日連夜の爆撃、空襲を受け、生命や財産、その他絶筆の辛苦をなめ、今もその傷はある。

この侵略戦争で、常にその先頭に立っていたのが天皇命令であり、君が代・日の丸であつた。日本の象徴であつた。こういう経歴を持つ歌に、今こだわりを持つのは自然の流れである。

様々な「暗い体験」は、一握りの特権階級は別に、普通国民は、今も脳裏にこれらを刻み込み生活を送っている。

自らの体験を語り継ぐことが、今は大切なのでは。

卒業式の主人公、巣立ちする若者たちが、胸を張り声高らかにうたえる、新しい国歌を皆の英知で創り出したいものである。

(大蛇町 佐久間 努)

木犀の咲く頃

“木犀は旅人の香り”と表現したのは白秋であつたか、八十であつたか。何れにしましても少女時代の私が、木犀の香りに深く魅せられたのは、この詞に拠るところが大きかつたように思います。

私が勤めていた付属幼稚園と小学校の合同運動会は、木犀の花の香る頃に行われました。

滞りなく運動会が終わりまして、五、六年の児童たちと後片付けや校庭の清掃をしました。集められたゴミは、庭の一隅で燃やしました。既に黄昏の光が広がっていました。来年も運動会に参加できるかしらなどと、鬼に笑われそんな思いと、一抹の寂しさで燃える炎を見つめていました。

毎年のように運動会の帰り道で、それまで気付かないでいた木犀の香りを嗅いだことでした。ご近所にも、私の家

にも木犀はありませんでしたから、時の間に匂う木犀の香りは、絶えて久しい人に巡り会えたような懐かしい香りでした。

教室の花瓶に、クラスの方かが木犀を飾ってくれました。ひそかにその枝先を摘み、ポケットに忍ばせました。胸元の天然の香水の香りは、ほのかながら馥郁と香りしました。

花の盛りの季に、是非行って目にしたい木犀があります。国立歴史民俗博物館の建物の後ろの道に、丸く刈り込まれた年数物らしい木犀です。この木犀が咲き満ちたら、透明で高貴な香りが五里四方へ広がってゆくことでしょうか。

木犀が言いました。「透明で高貴な香りですって！とんでもございません」と。

「謙遜」という花言葉を持つ木犀の咲きです。気温の変化に関わらず、その季が来て木犀も今年の花を咲かせています。

(白井 加瀬清子)

12月の黒板

市民カレッジ園芸が表彰されました

中央公民館の環境美化をボランティアで行っているサークル「市民カレッジ園芸」が「社会教育関係団体として、10年以上社会教育の振興に尽力し功績顕著な団体」と認められ、「千葉県社会教育委員連絡協議会表彰」を受けました。

去る11月8日の千葉県社会教育振興大会において表彰式が行われました。表彰状を中央公民館ロビーに掲示していますので、是非ご覧下さい。

年末年始休館のお知らせ

中央公民館の年末年始休館は12月28日から1月4日までです。利用受付は1月7日(月)です。

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくわく道

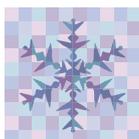
普段書いてる漢字を、他人から誤りを指摘され、何度となく辞書を見直したことがある。以来どんな字が間違えて書かれ易いか、気にするようになった。

私が見てきた範囲では、分の字が一番多く目につく。分の字は「はちがしら」だから今とか介のように上部が接しては誤りである。これを知っ

ている人でも書く時に手がついで、いつてしまうこともあると思うが、ご存じない人も結構いる。この点、当用漢字で習った若い人たちが、正しく書く人は多いようだ。ところで、読者の中にも俺はくつつけていたよと、言う人が、案外いるのではなからうか。



あがとき



五月にカレッジに入學し大勢の仲間と共に多彩なカリキュラムに挑戦、長いこと使っていたなかつた私の脳は、きつとあたふたしていることでしょう。猛暑の続いた夏、秋祭りも終わり、三年ぶりに印旛沼の花火の復活！花火師の精魂込めた大玉が秋の夜空を、七色に彩る。そうこうしているうち、もう十二月、一年つ

て早いものですな。

「異文化」娘、息子の結婚とは又ちがって孫まで期待とは！格別な楽しみでしょう。

木犀の香りに気が付くと、私も秋を感じ好きな香りです。大きな木犀の木の横を通った時、前を年配の方が、数人で歩きながら「香りがきつ過ぎてきらいだよ」と…。人それぞれですね。

皆様も身近なこと、楽しいこと、投稿をお待ちしております。

(栗田)